

生涯現役で働くとは

▼介護の仕事こそ高齢者の仕事
介護の現場での実務経験が3年以上あると

「ケアワーク弥生」時代に、月1回2時間半ほどの研修を受け、それが4年間続きましたが、ここで先輩たちから教わった介護の心やノウハウは私の原点となっています。父は4年前に他界しましたが、晩年は脳溢血で倒れ体が不自由となりました。研修で学び、現場で実際に体験したことで、介護のポイントがわかり、少しは父の役に立てたかなと思っています。母は93歳で健在ですが、柔軟な雇用形態ということもあり、母の世話も十分にできます。思いがけず親孝行ができたことに感謝の気持ちで一杯です。

名和さんの人生には絶えず転機が訪れた。「大きな決断をしなければならぬ」ときに、スイッチが入ります」とのこと。経営の知識を積み、トラックに乗り、クレーンをあやつり、いまは「ケアマネージャー」の資格に挑戦中。スイッチが入り続けている。

第33回

生涯現役で働くとは



ケアワーク東京
非常勤ヘルパー
名和和敏さん

名和和敏さん(69歳)は、クレーンの運転士として定年を迎えた後、縁あって介護の世界へ転身を遂げた。現在は居宅介護支援・訪問介護サービスを提供する「ケアワーク東京」のヘルパーとして活躍している。67歳で介護福祉士の資格を取得した名和さんが、飽くなきチャレンジ精神と生涯現役の可能性を語る。

いつもスキルアップを目ざして

父が東京拘置所に勤めていた関係で、私は都内の官舎で産声を上げました。大学の商学部を卒業後、会計事務所に就職、会計士を目指して5年ほど勤めた後、よりよい収入を求めて、親戚の運送会社に雇ってもらいました。会計事務所からトラックの運転手へ転職したことに、自分のなかで迷いはまったくありませんでした。結果的には運送業界で定年を迎えるわけですから、人生は不思議です。

最初は普通免許で乗れる2トン車に乗っていましたが、もっと大きな車に乗れるように大型2種の免許を取得しました。さらに、大型特殊免許、トレーラーの免許を次々に取りました。収入のことはもちろん頭にありましたが、自分のスキルアップを図りたいという気持ちの方が強かったように思います。

トラックの仕事はやりがいもありましたが荷物の積み下ろしを含むため、体の負担も大きいことから、将来のためにクレーン運転士へ方向転換することにしました。

40歳のとき、大手の運輸関係の会社に転職、クレーンの部署に配属されました。移動式クレーンなど2つの免許を持っていたものの、クレーンを運転するのはまったくの初心者ですから、先輩から厳しく指導してもらいました。小型のクレーンは5年ほどでこなすように

介護福祉士の受験資格ができるので、3年が過ぎたときに挑戦して資格を取得しました。実は一昨年ケアマネージャーの試験を受験しましたが、見事に落ちました。また、チャレンジするつもりです。

70歳を目前にしても、前向きになれるのはやる気をひき出してくれる職場風土があるからでしょう。

私は非常勤ヘルパーですが、会社は常勤・非常勤を区別することなく計画的な研修を実施してくれるので、モチベーションも上がります。また、私より年上の方もいるので長く働きたいという思いも強くなります。

勤務形態は火曜日から土曜日まで。時間にすれば月に100時間ほどでしょうか。仕事は訪問介護で、1時間ほどご利用者のお宅にうかがい、内容は入浴介助、買い物、食事の用意など多岐にわたります。私の場合に入浴介助が一番多く、年齢のわりには上背があることと、若いころ空手をやっていたので、その機敏な所作が役に立っているようです。

この仕事を始めて6年が経ちましたが、最初のころは体力もいることから介護は若い人の仕事だと思っていました。しかし、ご利用者と接するなかで、考えが変わってきました。ご利用者はみなさん人生経験豊かな人ばかりですから、年齢が近いので話もついつい弾みます。そういう意味で介護は高齢者に向いている仕事ではないかと。まさに自分の人生経

なりましたが、大型のクレーンは一人前になるには10年近くかかったでしょうか。遅い出発でしたが、クレーン運転士として定年まで勤めあげることができました。周囲の協力があったからこそだと思っています。

名和さんが現在働く「ケアワーク東京」は本誌2016年8月号の「特集」で紹介された。そのなかで、三輪加子所長は、67歳で介護福祉士の資格を取得した名和さんのことにも触れている。次々にスキルアップを果たした若いころのチャレンジ精神は、いまもなお飽くことがない。

親孝行が果たせた感謝

60歳で定年を迎えた後も再雇用で3年間働かせてもらいました。その後、「さてどうしようか」と思ったときに一番考えたのは高齢の両親のことでした。私は長男なので責任も感じていましたし、いままでのように朝早くから夜遅くまで働く仕事では両親の役には立てないと思い、正直迷っていました。そんな折、友人の奥さんから訪問介護を行う「ケアワーク弥生」の話が聞きました。そのころはまだ「ケアワーク東京」の事業所が展開されておらず、母体が「ケアワーク弥生」でした。介護の仕事はまったく未知の世界でしたが、高齢の両親のことを思うと、遠からず介護

10年先を見つめて

高齢者の仕事だと思っもの、まもなく70歳になりますから、仕事の形態を少し考えるときかなと思っています。今は週5日勤務ですが例えば1日減らしてみる、あるいは1日の休憩時間を増やすなど、体力に合った働き方で、できるならば生涯現役を貫きたいものです。

健康維持のために心がけているのは食事でしょうか。早寝早起きして、バランスのよい朝食をとるようにしています。また、昔トラックに乗っていた影響なのか腰痛があるので、週2回は整体に通っています。

若いヘルパーと楽しく会話することも元気の源です。仕事が変わるたび、常に私は初心者でしたから、たとえ自分よりずっと年下でも先輩として謙虚に学んできました。その姿勢はこれからも続けていこうと思います。

介護の現場は本当に人手不足です。若い人の情熱と、高齢者の人生経験がタッグを組めば強力な力になります。高齢者のみなさん、介護の現場で第二の人生を始めてみませんか。ご利用者の笑顔に出会えば苦労も吹き飛びます。私はいま、10年先の自分をイメージしています。それは、いまと同様、愛用のバイクを駆ってご利用者のお宅に向かう姿です。